

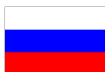
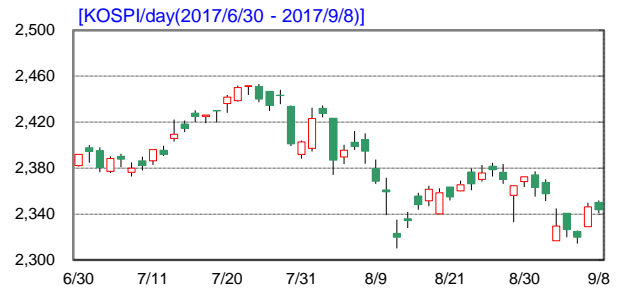


【韓国】 総合指数は週間で0.6%安と続落、北朝鮮懸念で売り優勢

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.6%安と続落。地政学リスクの高まりで総じて売り優勢の展開となった。北朝鮮の核実験を受けて週明け4日は大幅安でスタート。9日の建国記念日に向けて北朝鮮による新たな挑発行為への警戒感が根強く、週央にかけて運用リスクを回避する動きが強まり、6日終値は約1カ月ぶりの安値。7日は米朝軍事衝突への懸念が幾分和らいだ上、米政権が韓国との自由貿易協定(FTA)の破棄を見送ったと伝わったことを好感して6営業日ぶりに反発となったものの、8日は小反落して週の取引を終えた。在韓米軍による高度防衛ミサイル(THAAD)の追加配備で中国との関係悪化が懸念された。今週は北朝鮮の動向をにらみ神経質な展開か。韓国国内では金融、貿易、雇用など重要経済指標の発表が続く。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は1.7%高と4週続伸、今週は中銀の利下げ観測を好感か

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で1.7%高と4週続伸。前週まで3週続伸した流れを引き継ぎ、総じて堅調に推移した。週半ばまでは前週の大幅上昇の反動や原油価格の上昇一服の影響でマイナス圏での取引が続いた。ただ、ハリケーンの影響で稼働を停止していた米国の製油所の操業再開に加え、ロシアのノバク・エネルギー相が協調減産の合意延長を選択する可能性があるとの見解を示したことで、6日はブレント原油価格が54ドル台まで上昇。RTS 指数も連れ高し、引け間際にプラス圏に浮上した。ロシア中央銀行のナビウリナ総裁が「15日の会合で0.25-0.50%の利下げについて協議するだろう」と発言したことも支援材料となり、指数は週後半に5月半ば以来の1120ドル超え。利下げを意識し、今週も堅調な値動きが続くか。

▼指数チャート

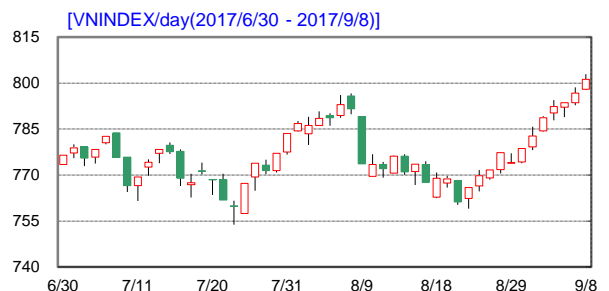


【ベトナム】 VN 指数は週間で1.6%高と3週続伸、今週も上昇トレンド継続か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.6%高と3週続伸。4日が国慶節の祝日で休場だったため、4営業日の取引となった。連休明け5日の寄り付きで790ポイントを上抜けた指数は、前週から8日まで7営業日続伸。北朝鮮リスクは意識されたものの、前週発表された良好な複数の経済指標を支援材料に買い優勢の展開が続いた。指数は8日に802.90ポイントまで上昇し、終値でも2008年2月以来の800ポイント台を回復した。個別では銀行株の多くが値を崩した上、時価総額1位のビナムミルクが1.6%安と相場の重しとなったが、サイゴンビールが10.7%高、マッサングループが10.4%高、先週相場をけん引したビングループが2.4%高となり、指数を押し上げた。今週はスピード調整も予想されるが、上昇トレンド継続か。

▼指数チャート

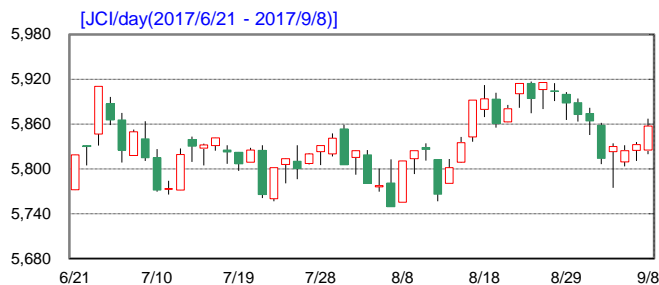


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.1%安、今週は 8月の貿易統計に期待

ジャカルタ総合指数は週間で 0.1%安と小幅に続落。後半の買い戻しが週の下げ幅を縮めた。4日は北朝鮮が前日に核実験を実施したことを受けた国際情勢の緊迫化が嫌気されて5営業日続落。同日に発表された8月の日経PMIが3カ月ぶりに景況感の分岐点となる50ポイントを回復したことに加え、同月のCPI上昇率が市場予想をやや下回り物価上昇圧力が低下したものの補えなかった。その後は7日まで一進一退が続いたが、8日は中国の8月の輸入額が市場予想から上振れしたことが好感され、続伸して取引を終了した。今週は11日に7月の小売売上高、15日に8月の貿易統計が発表される予定。

▼指数チャート

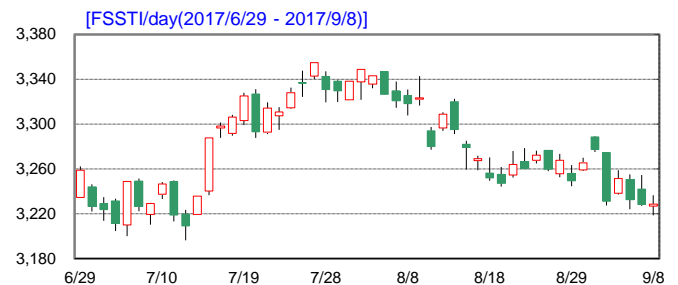


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.5%安、外部要因が指数下落をけん引。

ストレーツタイムズ指数は週間で1.5%安と3週ぶりに反落。週初の下落が響き総じて軟調だった。連休明けの4日は北朝鮮の核実験に加え、前週末に発表された8月の米雇用統計で、非農業部門の就業者増加数が市場予想を下回ったことを受けて金融株を中心に売られ、指数は前営業日比1.4%下落。一方で5日は、前日の取引終了後に発表された8月の製造業PMIが51.8と14年11月以来の高水準に達したことで買い戻された。ただ、勢いは続かず6日に反落すると週末まで小幅なレンジでもみ合って取引を終了。今週は12日に7月の小売売上高が発表される予定で、増加率の市場予想は前年同月比1.7%となっている。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.1%高、13年5月以来の高値を更新

SET 指数は週間で1.1%高と4週続伸。国内の重要イベントが少ない中、インラック前首相の国外逃亡を受けた政治不安緩和への期待感で大幅に値上がりした前週の勢いを維持した。指数は週初からじりじりと上値を広げ、特に7日は前日に米国の債務問題で上限を12月まで引き上げる案が合意され、不履行が一時的に回避されたことで買われると、結局、週末まで7営業日続伸。8日は13年5月以来の高値を更新して引けた。今週も国内の経済指標の発表が少なく、北朝鮮の動向や中国の8月の小売売上高と鉱工業生産、米国のCPIなどの外部要因に左右されそう。週末のNYダウが反発したことは追い風。

▼指数チャート

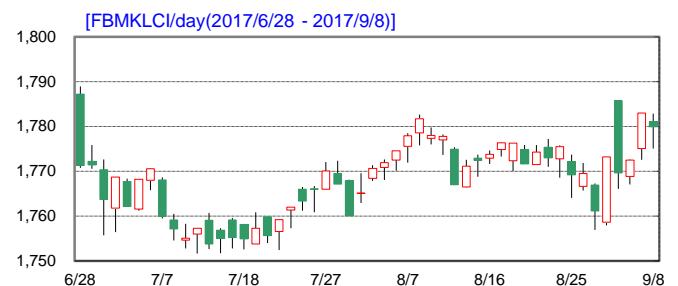


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.4%高、7月の輸出は前年同月比 30.9%増

クアラルンプール総合指数は4日間の取引で0.4%高と続伸。週を通じ小幅な値動きに終始した。マレーシアで開催された東南アジア競技大会での功績をたたえ、臨時の祝日となった4日は休場で、5日は北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりを受けて反落。一方で6日は7月の輸出額の増加率が前年同月比30.9%と市場予想から上振れたことを受けて買われた。今週は11日発表の7月の鉱工業生産に対する市場の反応が焦点。市場では政府・与党が近く解散総選挙に踏み切るとの見方が再浮上しており、観測次第で株式相場が左右されそう。前週末に為替相場場で米ドルに対するリング高が加速したことは好材料。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。